
1330名の学生に衆議院議員選挙に関する意識調査アンケートを実施

若者が選挙に行かない理由第一位は投票環境によるもの

投票に行かない理由の4割が「投票に行くヒマがない」「投票所が遠い」を占めた

特定非営利活動法人ドットジェイピー

NPO法人ドットジェイピー(以下、ドットジェイピー)は、『若年投票率の向上』を目的に、議員事務所や官公庁にて政策立案過程や行政について就業体験を積む「インターンシッププログラム」(議員・首長インターンシップ)を、学生を対象に提供しております。

この度、ドットジェイピーでは、第46回衆議院選挙に際しての若者の政治意識を調査するため、**全国1330名の学生**にアンケート調査を実施しました。その結果をここにお伝えします。

(さらに詳しいデータをお求めの方は、次のお問い合わせ先までご連絡ください。

⇒ 意識調査企画担当 青木雄太 070-6660-6445 hollygundam@gmail.com)

■調査概要

- 【対象】 日本全国の大学生(大学院生含む) 1330名
- 【期間】 2012年11月27日～12月6日
- 【調査目的】 第46回衆議院選挙に際し、若者の投票行動から現在の政治に求められていることを分析する。
- 【調査方法】 WEBアンケート(弊社学生スタッフの配信) 紙媒体アンケート(弊社学生スタッフが回収)

■調査結果報告

■議員・政党は若者への発信力を高めるべきではないか？

今回の調査結果で以下のようなことがわかった。

1) 8割以上の学生が今回の選挙に関心があるものの、投票に行くと考えている学生は6割

関心はあるが行動にまで移せていない学生が2割もいる。大学生・院生の2割とは全国で57万9千人(※1)である。これは解決されてしかるべき課題である。

2) 投票に行かない理由に「投票環境」が一位。

「投票に行く時間がない」と投票の仕組み自体が持つ弊害により若者が投票に行かないことがわかった。より多くの意見を政治の場に反映するために、アメリカのように大学構内に投票所を設置するなどの施策が必要なのではないだろうか。第二位の「どの政党も議員もよくわからないから」に対しては若者にとってアクセスしやすいインターネットという情報媒体の選択はもちろん、各議員が何をし、何をしなかったのか、行動や結果ベースでの実績をもっと発信していくべきである。

3) 若者が考えている重点政策分野とメディア・議員が考えている重点政策分野の違い。

日本記者クラブが開催した党首討論会で取りあげられたTPP,原発,景気対策であるが、若者にとって原発、TPPは優先度が低く、雇用政策と外交に注目している。これは議員・メディアが学生の声を無視しているのではないかという可能性と、若者が原発、TPPなど争点となっている政策分野の優先度を理解していないという可能性がある。

ただし、2010年に弊社が実施した意識調査で若者の90%が政治情報を取り入れるメディアとして「テレビ・新聞」を利用していることがわかっていて、これによって若者が考える政治における重点政策は、マスメディアの情報を得た上での判断だということがわかる。

これを受けて若者の声を政治に反映させるパイプ役の必要性が急務であることがわかった。

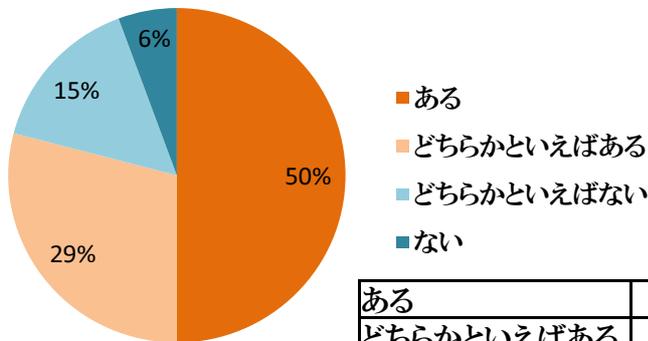
※1 文科省 2011年 学校基本調査より

■ 調査結果報告

1, 若者の選挙に対する姿勢

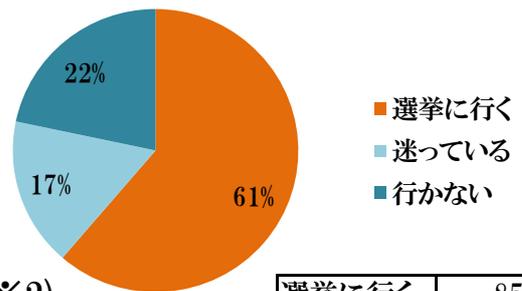
今回の選挙に関心が「ある」「どちらかといえばある」と回答している学生が8割を占めているものの、投票に行く決めていている学生は6割に減る。
また、投票に行かない理由としては投票環境によるものが半分以上を占めた。「どの政党・議員も良い政治をしてくれそうだから」投票に行かないという選択肢も用意したが回答者は全体の2%のみにとどまり、政治が「任せて安心」なものではないと認識していることがわかった。また、選択肢として用意していなかったが、「その他」と回答した理由として「住民票を移していないため」という記述が多く見られた。これにより不在者投票の制度が若者の間で浸透していないことが示された。

◆ 今回の衆議院議員選挙に関して関心はあるか



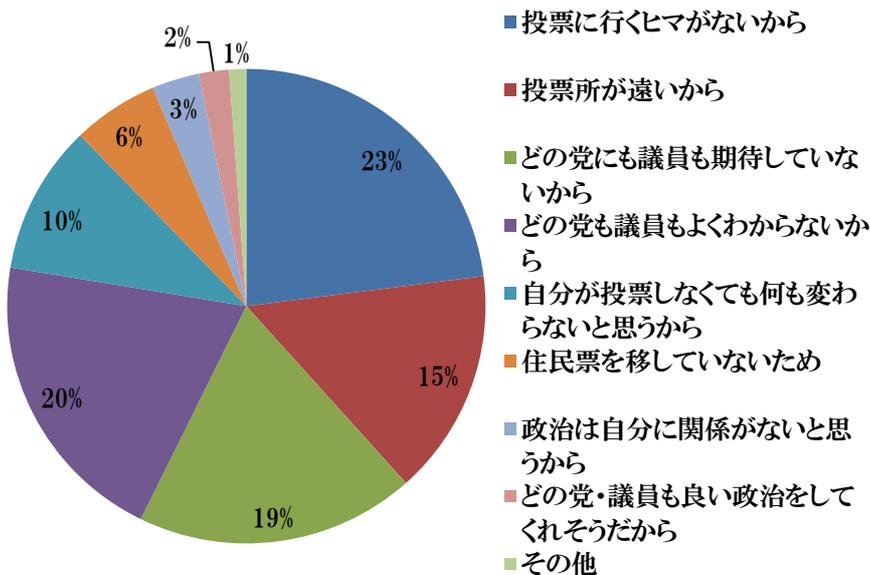
| | |
|------------|-----|
| ある | 693 |
| どちらかといえばある | 359 |
| どちらかといえばない | 168 |
| ない | 81 |

◆ 今回の選挙に行くか



| | |
|-------|-----|
| 選挙に行く | 856 |
| 迷っている | 268 |
| 行かない | 193 |

◆ 選挙に行かない、迷っていると回答した方の理由(※2)



| | |
|------------------------|----|
| 投票に行くヒマがないから | 79 |
| 投票所が遠いから | 53 |
| どの党にも議員も期待していないから | 65 |
| どの党も議員もよくわからないから | 70 |
| 自分が投票しなくても何も変わらないと思うから | 35 |
| 住民票を移していないため | 20 |
| 政治は自分に関係がないと思うから | 11 |
| どの党・議員も良い政治をしてくれそうだから | 7 |
| その他 | 4 |

「その他」の解答例:

面倒である、投票先を決めかねるなど。

「住民票を移していないため」という回答は設問に設けなかったが回答数が多かったので項目として挙げた。また、未成年者の回答で「選挙権がない」という回答が続出したため有権者のみ反映している。

■ 調査結果報告

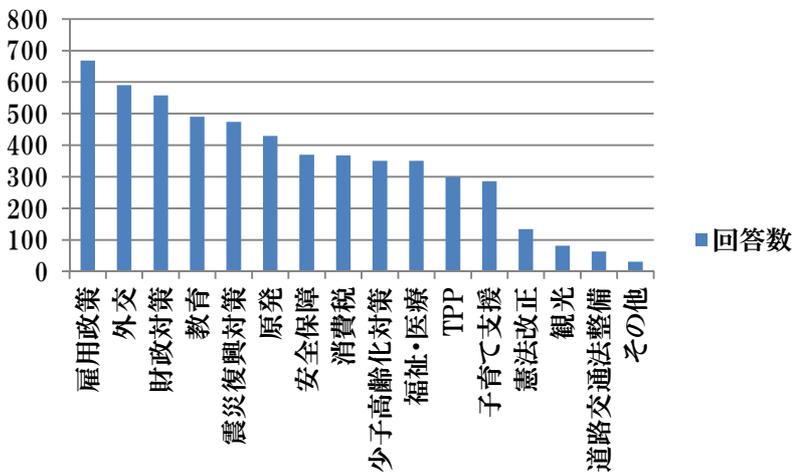
2、若者が考える選挙の争点

今回15の政策分野を用意したが若者が力を入れて欲しい政策は以下のようになった。便宜的に上位6項目を挙げ、残りをその他にまとめた。なお、争点とされているTPPに関しては11位に位置し、優先度の高い政策分野とは取られていないことがわかった。

この結果から若者が考える重要な政策が議員・政党に届いていない又は、優先度が低く無視されていると考えられる。また、以前弊団体が行った意識調査において若者が消費税増税に対し、賛成意見が多数を占めること、原発に関しては依存度15%を維持するという意見が多数であることがわかっている。ここから若者が消費税と原発に関しては「問題視」していないことが推測される。

若者が力を入れて欲しいと思っている政策としては雇用政策が第一位、外交、財政対策と続いた。こちらのアンケートの回答者が1,2年生中心であることにも注目したい。

◆ 次の政権に力を入れて欲しい政策はなにか



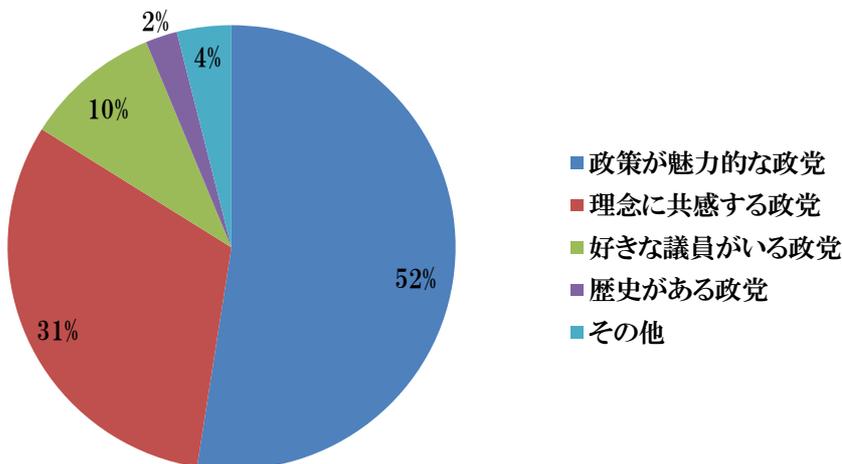
| | | | |
|--------|-----|---------|-----|
| 雇用政策 | 668 | 少子高齢化対策 | 350 |
| 外交 | 590 | 福祉・医療 | 350 |
| 財政対策 | 558 | TPP | 299 |
| 教育 | 490 | 子育て支援 | 286 |
| 震災復興対策 | 474 | 憲法改正 | 134 |
| 原発 | 429 | 観光 | 81 |
| 安全保障 | 370 | 道路交通法整備 | 63 |
| 消費税 | 368 | その他 | 31 |

3、応援したい政党について

※3 厚労省若者雇用関連データより

若者が応援したい政党としては政策が「政策が魅力的な政党」「理念に共感する政党」が大半を占めた。若者からの支持を集めるには上述の二つの要素が必要なようである。また、項目としては設けなかったが「政策を実現する力のある政党」もその他の記述に散見された。他に「その他」で挙げられていた例は「特に応援したい政党はない」という意見があった。

◆ どんな政党を応援したいか



| | |
|------------|-----|
| 政策が魅力的な政党 | 624 |
| 理念に共感する政党 | 422 |
| 好きな議員がいる政党 | 117 |
| 評判が良い政党 | 52 |
| 歴史がある政党 | 27 |
| 実行力がある | 11 |
| その他 | 68 |

■質問項目

問1 あなたの性別をお答えください。

男性 女性

問2 あなたの学年を教えてください。

1年 2年 3年 4年 大学院生

問3 お住まいの地域を教えてください。

北海道 東北地方 関東地方 中部地方 近畿地方
中国地方 四国地方 九州地方

問4 投票権を持っていますか？

持っている 持っていない

※投票権を持っていない方は以下の質問に投票権を持っていたとしたらで答えてください。

問5 今回の選挙に関心がありますか

ある どちらかといえばある どちらかといえばない
ない

問6 今回衆議院選挙があることを知っていましたか？

知っていた 知らなかった

問7 あなたが応援したい政党はどんな政党ですか？

好きな議員がいる政党 政策が魅力的な政党
歴史がある政党 理念に共感する政党
周りの評判が良い政党 その他()

問8 次に政権に就いた党に力を入れて欲しい政策はなんですか？(複数回答可)

安全保障 外交 観光 教育 原発 憲法改正
子育て支援 雇用政策 財政対策 少子高齢化対策
消費税 震災復興対策 TPP 道路交通整備
福祉・医療
その他()

問9 あなたは今回の選挙に行きますか？

行く 迷っている 行かない

問10 上の質問で「行く」と答えた方に質問です。それはなぜですか？

国民の義務だから 日本により良くなってほしいから 当選してほしい議員・政党があるから
その他()

問11 上の質問で「迷っている」、「行かない」と答えた方に質問です。それはなぜですか？

自分が投票しなくても何も変わらないと思うから
投票に行くヒマがないから
投票に行くのがカッコ悪いから
どの党にも議員にも期待していないから
どの党も議員もよくわからないから
投票所が遠いから
政治は自分に関係がないと思うから
どの党・議員も良い政治をしてくれそうだから
その他()

問12 前回の衆議院選挙では20代の投票率が49.5%と若年層の投票率が低い傾向にあります。(最も高いのは83.7%の60代)このことについてあなたは問題だと思いますか？

問題だと思う
問題意識はあるが仕方のないことだと思う
知っているが特に気にしていない
そもそも若年投票率が低いことを知らなかった。

問13 問12で「問題だと思う」に回答した方に質問です。そう思う理由を教えてください。

高齢者の意見が反映される世の中になるから
若者として自分の意見を発信する必要があると思うから
投票は国民の義務だから
若者が日本の将来を考えないのは危険だと考えるから
自分たちの生活に直結することだから
その他()

問14 問12で「問題意識はあるが仕方のないことだと思う」「知っているが特に気にしていない」に回答した方に質問です。そう思う理由を教えてください。

自分が投票しなくても何も変わらないと思うから
どの党にも議員にも期待していないから
どの党も議員もよくわからないから
政治は自分に関係がないと思うから
どの党・議員も良い政治をしてくれそうだから
その他()

■回答者属性

| | | | |
|------|-----|------|-----|
| 男性 | 56% | 1年 | 38% |
| 女性 | 44% | 2年 | 29% |
| | | 3年 | 17% |
| 有権者 | 58% | 4年 | 10% |
| 非有権者 | 42% | 大学院生 | 6% |

▼NPO法人ドットジェイピー <http://www.dot-jp.or.jp>

本部 東京都千代田区、理事長 佐藤大吾、1998年創業。全国10支部にエリア展開し、大学生約200人が中心となって「若年投票率の向上」を目的に活動するNPO法人。累計14,000人の参加者数を誇る「議員インターンシッププログラム」をはじめ、「未来国会」(<http://www.miraikokai.com/>)、「未来自治体」(<http://www.miraijichitai.com/>)など若年層を対象とした社会学習プログラムを提供。また、「Yahoo!みんなの政治」(<http://seiji.yahoo.co.jp/>)等への議員・議案情報提供など、活動は多岐に及ぶ。本年度より海外公的機関での職業体験を行う「グローバルインターンシッププログラム」を開始。

【関連書籍】「タネダミキオでございます」(新潮社)監修「“20代、コネなし”が市議会議員になる方法」(ダイヤモンド社)協力、他(以上、2012年10月1日時点)

jp
japan produce.